

自分ごととしての活動を

6年

『地球温暖化と生活』の実践

札幌市立北九条小学校 森田 智也

◆単元のポイント

○自分ごととしての活動を目指して

環境をテーマにした実践は、一見やりやすいように思います。なぜなら、子供の課題、活動、そして子供から出てくる反応はすべて正しく、善であり、正義であるからです。そこに、一種の落とし穴があり、私たちは正義であるからゆえ、本当に大切なことを見失いがちになるのです。

身近なテーマを扱うにせよ、この題材のように、大きなテーマを扱うにせよ、一番心配されることは、資料からの知識だけに頼ると、上っ面の理解にとどまり、課題が自分ごとにならなかつたり、活動に幅ができないということがあります。それをいかに自分の生活のレベルで置き換え、自分の問題として翻訳できるかが、一番大きなポイントと考えました。

○この単元の意義と主張

さて、この単元のみならず、地球環境をめぐる問題は、一刻の猶予のない問題です。平成9年12月に「地球温暖化防止京都会議」が開かれました。CO₂などの温室効果ガスの排出量を1990年に比べ6%削減という厳しい内容を課せられたわけです。しかしながら、本来的には地球に及ぼす影響を考えたならば、20%の削減が必要であるといえます。これは、安全かつ健康で人間らしく生きる権利よりも生産性、経済効率を重視してきた結果です。

これらの問題を、行政のみの責任とするのではなく、自らのライフスタイルに反映するような意識の醸成を期待したいと考えました。

○生活者というファクターを大事にして

「温暖化」という言葉は、多少なりとも知っていたとしても、その中身までは、よくわかっていません。資料を調べて、それで「温暖化」がわかったというのであれば、それは資料を写したにすぎません。ここでは、常に自分というファクターを通じ、自分なりに判断していくことを意識させました。そこから出てくる、小さな疑問を拾い上げ、子供たちの自分ごととしての活動につくりかえていくことを大切にしました。

◆単元の構成（15時間扱い）

地球温暖化と生活

児童の主な活動

指導と評価の視点

地球温暖化について知ろう

- ・異常気象－海岸の浸食 海面上昇
- ・30年後は－干ばつ 洪水 砂漠化 台風
- ・オゾン層の破壊 ・気候帯の変化
- ・文化遺産の水没
- ・原因は、化石燃料？→電力発電 運輸 便利な生活

- ・資料の保障を十分に行う。
- ・知識獲得だけが目的ではなく、何のために調べているかという目的をはっきりさせておく。
- ・今後の活動の方向性について考えたり、問題点、相違点、共通点を整理していく。
- ・「生活者」というファクターを盛り込んでいく。
- ・樹木の種類によって、CO₂吸収量には違いがあるがここでは同一に扱う。
- ・活動の意義やよさを積極的に伝え、活動のエネルギーとしていく。

自分たちの生活で考えてみると

- ・原子力発電？－安全性？ 廃棄物処理の問題
- ・待機電力・電気自動車の開発はどこまで？
- ・札幌市、北海道の対応は？・森林を増やせば？

【活動1】樹木のはたらきとCO₂

- ・1本の木が吸収するCO₂量
→北九条の年間の電気使用量だと何本の木が必要か

【活動2】被害について

- ・札幌市で水没する場所はどこか。（地図ぬり）
- ・気候帯の変化と農作物への被害

【活動3】もっと調べる活動

- ・交通量調査とCO₂・リサイクルと生活
- ・国別エネルギー消費・国別CO₂排出量
- ・環境家計簿－我が家のCO₂発生量と樹木
→成果を発信していこう

◆実践するにあたって

子供たちの活動は、日に日に細分化されていく傾向にあります。（終末は大きな束に収束はしていきますが）できる限り、TTという形か、学年合同としての指導体制が望ましいと思います。